

第2回蔵王町立中学校統合準備委員会 会議録

日 時：令和3年12月17日（金）

午後7時00分～8時47分

会 場：ふるさと文化会館 多目的ホール

出席者： 委 員 27名（5名欠席）

事務局 7名

※出席者の所属，氏名は当日会議次第のとおり

委員以外のもの 東北設計計画研究所・梶浦暁設計共同企業体

1. 開 会 （進行⇒事務局：福地 教育総務課長）

2. あいさつ（村上委員長）

3. 会議録の確認

事前送付した会議録について修正がないことを確認

委員名簿を公開することを確認

4. 議 事

（1）蔵王町立中学校統合準備委員会のスケジュールについて《室長より説明》

委員会及び部会の現時点でのスケジュール事務局案を資料1により説明

（2）蔵王町立統合中学校新築設計委託事業者の選定について《室長より説明》

新築設計委託事業者の選定経過を資料2及び資料3により説明

（3）建築設計委託事業者の技術提案について

《東北設計計画研究所・梶浦暁設計共同企業体より説明》

プロポーザルで提出された技術提案書について資料4及び映像により説明

5. 意見交換

(氏名) (概要) (要)

《技術提案について》

福地課長 : 続いて意見交換だが、初めに今説明があった技術提案についてから始める。

N委員 : 自学自習を重視しているとのことで、素晴らしい提案だと思う。体育館が吹き抜けとなっているが、体育館と教室が同じ空間になるということか。その場合、寒さ暑さ対策はどのように考えているか。

次に、大階段が1か所と外部階段があるが、そちらも避難をするときなどに使えるのか。

震災などがあつたときの、水の確保はどのように考えているか。

設計事業者 : 体育館に吹き抜けと表現的には書いてあるが、技術提案書のスケッチの体育館との境に線が引いてある。ここには間仕切りがあり、全面ガラス張りというわけではないが、ここからも体育館内が見えるという意味である。体育館はバレーボールなどをするため天井の高さが必要なことから、ここでは吹き抜けという表現をしているが、閉じた空間であると思ってもらえればよい。

次に階段の話だが、どうしても大階段が目立って見えるが、昇降口を入ってすぐのところに、ランチルーム側へ上がる階段と普通教室側に上がる階段がある。大階段はひな壇で階段の高さ40cmで腰掛けるのにちょうどよい高さである。フリースペースでの自学自習といったが、ここにもこぼれてくるような形で、くつろぎながら交流ができるような感じである。

水の件だが、1階北西側に機械置場があり電気・機械・防災とある。ここで水を貯めるということではないが、災害時には芝生広場で、例えば非常用発電、給水タンクなどを設置することで、すぐ近くまで車が進入できるというような考え方である。

(氏名) (概要) (要)

福地課長 : 当然, この大きさの施設だと, 受水槽を設けなければならなくなることから, 水が止まった場合でもまずはしのげる。その後は給水車等で受水槽に給水するということになると思う。

X委員 : 体育館の出入りは1階部分からになるのか。

設計事業者 : 通常の入りは1階の蔵王ホール側からである。

地域開放するときは, 北側玄関から施設内に入って通常時と同じ入り口から体育館に入ることになる。イベント時や物資を搬入するときは野外ステージ側を開けて連携することも可能である。

X委員 : 2階から降りるということは無いということか。

設計事業者 : それはない。

X委員 : 開放の時に遮断できるということだが, 開放の団体は校舎の中に入れないうようにできるということか。現在鍵の貸し出しをしているが, 体育館の出入口の鍵しか貸しておらず, 校舎の中に入ることは無いようにしている。それは可能か。

設計事業者 : 例えば, ランチルームに上がる階段のところでシャッターを下ろすなど管理区画を設けることで可能である。

X委員 : 現状だと夜間開放のため, 職員がいなくても体育館だけ使用できるようになっている。したがって, 体育館の鍵を貸し出ししても校舎内に入ることはないため, 安心して貸し出しできる。

設計事業者 : 貴重な意見に感謝する。その点に関しては必要な意見として, 調整させていただく。よくある例では, 校舎と体育館が離れているが, 今回はコンパクトにするため, 一体型としたことにより弱点になっている。検討させていただく。

X委員 : 給食を2階の教室に運ぶようになると思うが, その場合は配膳室からエ

(氏名)

(概

要)

レベーターで運ぶということか。

設計事業者 : 配膳室は給食センター予定地に近いところにあって、そこから通路を
通ってエレベーターで運ぶことを考えている。

X委員 : スクールバスで通学する生徒が増えると思うが、東側から通学してくる
イメージでよいか。西側にスクールバス駐車場とあるが、ここには後で移
動すると考えてよいか。

設計事業者 : そのように考えている。スクールバスは東側から入ってバスパースに停
まり、そこから生徒は登校する。その後、一方通行で外に出ていき、西側
から入ってバスを停めることを考えている。

X委員 : 車庫と考えてよいか。

設計事業者 : はい。

X委員 : 外の部活のトイレは、校舎の中に入らなくても利用が可能か。

設計事業者 : C2のパースの校舎1階西側に部室の入り口があるが、その隣に外から
入れるトイレを設置することを考えている。1階平面図の西側にトイレが
二つ並んでいるが、北側が中から、南側が外から使用できる。

X委員 : 足を怪我した生徒はエレベーターで2階へ上がればよいのか。また、グ
ラウンドが低くなっているがどのように考えているか。

設計事業者 : 校舎内ではエレベーターで上がることになる。技術提案は詳細な設計で
はなく計画意図を正確に伝えることになっているため表現が無いが、今指
摘があったグラウンドに降りる方法についてはスロープを設けたい。

L委員 : 部室倉庫という表現が校舎1階西側にしか見受けられないが、他に設け
ることは無いのか。

設計事業者 : プロポーザル時点での部活動の数で部室の数を設定しているが、設計期
間は2年間あることから、準備委員会から何かあれば対応したい。

(氏名) (概要) (要)

L委員 : 体育館で行う部活などはその近辺に設けるとか、屋外の部活は校舎西側を使用するというような配置になるのか。

設計事業者 : その点については、町と調整しながら進めていきたい。

Y委員 : 今後入学する生徒の中に車椅子の生徒などもありえる中、説明の中で敷地の中に段差があるとのことだが、バリアフリーについてはどのように考えているか。

設計事業者 : 敷地の高低差は西側と東側で4 m程度あることから、プロムナードを東側から長く設けて、緩やかに上がっていくような、坂であると感じさせないくらいのもので、外構で解消していきたいと考えている。したがって、極端にレベルがドンと上がるようなことは無いようにしたいと思っている。今後、詳細な設計で調整していきたいと思う。

Y委員 : 例えば車椅子を使用している生徒がいたとして、緊急事態があって避難しなければならないような場合、1階と2階の間はエレベーターとのことだが、車椅子でもスムーズに下りられるようにするにはどうすればいいのかと疑問に思った。

設計事業者 : 2階から1階へだと、やはりまずはエレベーターになる。地震が起きたときにどうかということもあるが、その時は生徒同士がサポートしながら移動するというような関係を作っていくということも大事かと思う。エレベーターの配置は校舎の中央に配置することが、どこからも近いということになる。

H委員 : 普通教室を出て特別教室に向かう部分は開放的でとてもよいと思うが、その通路部分は外気にさらされているのか。あるいは、仕切られていて外気は入ってこないのか。

設計事業者 : 外気は入らず、内部になっている。パースの空が見えている部分は開閉窓が設置されていて、基本的に屋内である。外気を取り入れたいときは開放することもできるように考えている。

(氏名) (概要) (要)

F‘委員 : 特別教室で授業中に有事があったとして、避難するとなると東側にしか逃げられないのか。一方向避難だけでは生徒の安全が確保できない可能性があると思うが、西側からは出られないのか。

設計事業者 : パースが見つらいが、西側に外部階段を計画したいと考えている。

F‘委員 : 避難施設として使用する場合、アリーナの収容人員は何名くらいを考えているか。防災拠点としても活用できるとよいと考えている。

設計事業者 : 県内中学校の一般的な体育館の面積になる。そのイメージで考えてほしい。

Z委員 : 特別教室の区割りについて質問したい。図書室と視聴覚室がガラスで区切られているとのことだが、図書室には書庫が必要になると思われるため、確保してほしい。理科室や技術室にも準備室のような機材や教材を置いておく場所が必要になるため検討してほしい。

設計事業者 : 蔵書数が多いございんホールの図書館に隣接しているが、図書室をどこまで整備するかや、ICT化が進んでいくことから、今までの中学校にある図書室の規模ではなくなってくるのではないかと考えていて、少し縮小化されていくと思っている。これは、町とすり合わせしていく中で、ございんホールの図書館との連携を含めて詳細を詰めていく。

理科室と技術室には準備室が必要である。この絵上はこのようになっているが、詳細に設計していくときにはそれらのところも反映していく。

N委員 : 蔵王屋根の周りがガラス張りとのことだが、耐震上はどうか。職員室もガラス張りにして周囲を見られるようにするとのこと、ガラスに囲まれている校舎だという印象だったが、耐震性についてどのように考えているか。

設計事業者 : 耐震性については構造計算上、学校や幼稚園は通常の建物の基準が1.0だとするならば、1.25や2割5分増しのような構造設計をしていく

(氏名)

(概

要)

ため安心していただきたい。ガラスのところは地震がきても大丈夫かというところかと思うが、外壁につくサッシに少し遊びを持たせることで揺れに追従するようなことを考えながら詳細な設計をしていく。

職員室だが、図で見ると全てガラスのように見えるが、これは、ここはガラスで基本的に見せたいというのをわかりやすく、0か1かで表現しているものであり、全面ガラスというわけではなくガラスを使って基本的には見せたいということを表している。見晴らしがいいポイントはガラスを使うが、腰壁があってロッカー等も置けるようになる。実際には柱など構造体に必要なものが出てくる中でどこまでガラスにできるか、南に面していることから、自然光がなるべく入るように、また、見晴らしがいいなどいうのを、バランスを見ながら設計していく。

福地課長 : その他無ければ技術提案に関する意見交換を終了する。

《スケジュール及び事業者の選定について》

福地課長 : 引き続き、最初に説明したスケジュールと事業者の選定について意見交換を行う。

基本的に現在の委員で開催する委員会は、よほど大きな進展が無ければ今年度は今日で閉めたいと考えている。新年度になったら、早々にメンバーの確認を行い第3回の委員会を開催し、部会ごとに分かれていただくことになる。引き続き委員を務めていただける方は考えておいてほしい。

D ‘委員 : 技術面での意見交換は今日が最後だという話があった。今日技術提案書を見て、気づかないこともあると思うが、もう一度くらいどこかで設けてもらうことはできないか。

日下室長 : 気づいた点があれば、事務局に連絡してほしい。今日説明したのは技術提案で具体的な設計ではなく、設計を進めるうえでのイメージを示している段階であることから、設計が進んでいった段階で説明することが必要になると考えている。ただし、その時期は進めてみないと約束はできない。

(氏名)

(概

要)

いずれにしても、来年度基本設計により具体的なものを決定することになるため、その前の段階で説明する機会を設けたいと思う。

また、教育施設であることから、学校の現場の先生方から話を聞かなければならない部分もあるため、別枠でそういった機会を設けたい。

福地課長 : 案ということで、第2号の準備委員会だよりを配布しているが、今日説明したスケジュールと技術提案書の内容について大まかに載せている。これで、今月末に全戸配布する。

Q委員 : これまで中学校の体育館を借りて交流会などを行っている立場である。今後、統合したあとも続けて借りることができるのか。

福地課長 : 既存校舎部会では、今ある中学校の体育館をどうするのかということも含めて話し合っていくことになる。新しい体育館は、現状の体育館よりもずっと大きいものになるが、こちらも地域開放するというで考えている。

N委員 : 給食センターについて、教育長はどのように考えているか。できるならば開校と一緒に、可能ならばその前に整備できれば幼稚園が給食弁当ではなくなっていいと考えている。

文谷教育長 : 幼稚園については認定こども園の構想があり、そこには給食室も設けることになる。そこから給食を提供できるようになる。

給食センターについては、開校と同時にできればいいわけだが、財政上の問題をこれから考えていかなければならない。用地は統合中学校敷地内に確保することから、整備に向けてどのような形で実現できるか努力していきたい。

6. その他

次回以降の予定について、口頭で説明。年度内は今回が最終とし、次回は来年度5月以降の予定。

7. 閉 会 (芦立副委員長あいさつ)